



PETサマーセミナー2007 ランチョンセミナー

肺癌治療の最前線

—PETの情報をいかに生かすか—

2007年8月25日(土) 12:15–13:15 琵琶湖ホテル

座長

玉木 長良先生

(北海道大学大学院医学研究科 核医学分野 教授)

演者

森川 利昭先生

(東京慈恵会医科大学外科学講座 呼吸器分野 教授)

共催

PETサマーセミナー2007 日本メジフィジックス株式会社

PETサマーセミナー2007 ランチョンセミナー

肺癌治療の最前線

—PETの情報をいかに生かすか—

森川 利昭

(東京慈恵会医科大学外科学講座 呼吸器分野 教授)

肺癌はわが国の悪性腫瘍による死亡の最多数を占める難治癌である。最も有効な治療である外科治療は近年大きく変わりつつある。その理由の第一はFDG-PET、さらにはPET/CTの導入であり、もう一つは低侵襲手術の発達である。

従来は放射線の画像による形態診断と、患者の苦痛の大きい気管支鏡に基づく術前病理によって手術適応が決定され、侵襲の大きい開胸手術により治療が行われていた。そのため肺癌の治療は苦痛に満ちたものであった。

しかし病巣の代謝を反映するPETは術前病理診断の必要性を減じ、胸腔鏡による肺癌根治手術と相まって、極めて低侵襲に肺癌の診断・治療を完遂することが可能になった。最新の肺癌の外科治療症例を通して、最新の進歩を実感していただきたい。